

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

幼児教育学科（幼二種免）

幼児教育学科では、これからの時代を主体的に生きる高い知性と広い教養、豊かな人間性を備えた人材の育成を目指すとともに、子どもの健やかな成長発達を援助し、保護者の子育てを支援することができる、資質の高い幼稚園教諭の養成を目指している。特に人間性の育成の面では、優れた感性と子どもへの深い愛情という資質の養成を重視している。

本学科における幼稚園教諭養成は既に 50 年以上年の歴史を有しており、県内幼児教育の振興に大きな役割を果たしてきている。幼児期の教育は、「生涯にわたる人格形成の基礎」「義務教育及びその後の教育の基礎」を培う極めて重要なものであり、本学科の幼稚園教諭の養成は県内における幼児教育や幼児を持つ保護者の家庭教育支援において、より一層大きな役割を果たすことが期待されている。

このような教育理念の確かな実現のために、本学科では、特に幼児教育現場との連携を重視している。実習実施園との定期的な連絡会開催のほか、幼児教育現場との実践研究交流の場として、年 1 回の幼児教育研究会を開催（昭和 46 年より実施）している。昭和 55 年からは「幼児教育センター」を設置し、一層の実践研究交流を進めている。その他、幼稚園教諭の現任研修に積極的に参加するとともに、平成 21 年度からは、教員免許更新講習を、（さらに平成 27 年度からは、富山国際大学とともに幼稚園教諭免許状特例講座を）開講している。このような幼児教育現場との緊密な交流が、本学科の幼稚園教諭養成教育の質向上に大きな役割を果たしてきている。

幼児教育学科（認定課程：幼二種免）計画/各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	保育の本質と目的を理解するとともに、保育の対象となる子どもを理解するために必要な専門的知識を習得する。また、保育の基礎的な表現技術を身につける。子どもを取りまく社会状況に関心を持ち、社会ニーズや保育に関する制度等を把握する。あらゆる学びを通して、子どもを尊重することの大切さと感性の重要性を理解する。
	後期	前期に引き続き、保育の対象となる子ども理解を深めるとともに、子どもの発達支援に必要な保育技術を身につける。自らの保育実践をふりかえり改善につなげる循環的なPDCAサイクルの理解と実践を行う。学外での実習等を通して、自己理解と他者理解に努める。
2年次	前期	5領域を基本とする保育内容について、それぞれの専門的知識を深め、保育を構想・展開する技術を身につける。また、実践的な学びを通して、子ども理解を深めるとともに、応答的に保育を展開する応用力を身につける。現代的な保育課題について、自ら情報を収集し考察を深めるプロセスを組み立てることができる。
	後期	これまでの保育に関する学びを有機的に関連付けながら、子ども・家庭・地域の子育て環境におけるニーズを理解し、必要な保育実践力について学びを深める。実践的課題を他者と協働しながら取り組むことで、自らの保育技術を活用しながら、適切に課題解決する力を身につける。自らの保育実践及び自分自身をふりかえり、子どもに対する深い愛情や豊かな感受性、共感性を確認するとともに、自己課題を明確にし、課題解決にむけて、意欲的に取り組み続ける姿勢を身につける。